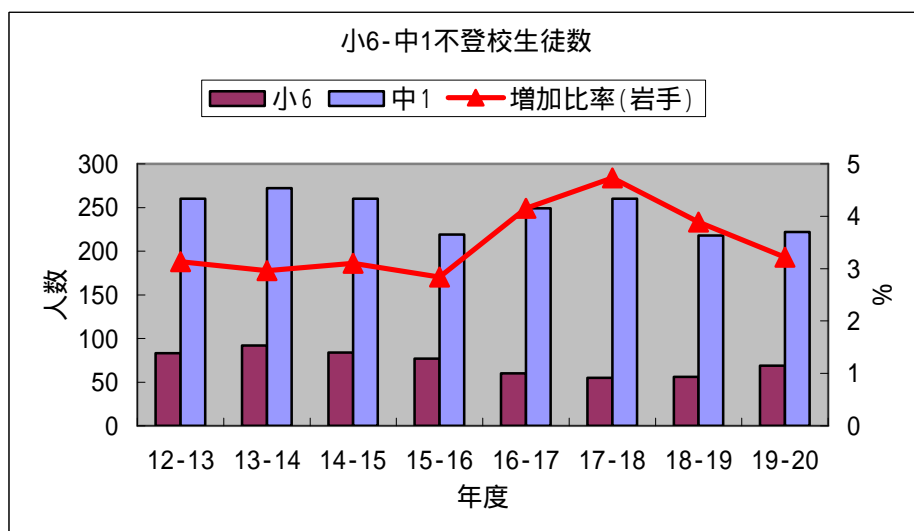


中 1 ギャップへの取り組み

中学校入学時に急激に増える不登校、いわゆる「中 1 ギャップ」への取り組みの成果が現れています。各学校における小中連携の取り組みや、各市町村教育委員会が独自に行っている関係機関と連携した取り組みなどが、児童生徒の適応感につながっています。



小6 中 1 不登校児童生徒数

年度	小6	中1	増加比率
12-13	83	260	3.13
13-14	92	272	2.96
14-15	84	260	3.10
15-16	77	219	2.84
16-17	60	249	4.15
17-18	55	260	4.73
18-19	56	218	3.89
19-20	69	222	3.22

【奥州市の不登校対策】関係機関と連携することで不登校を減少

- 奥州市教育研究所心の指導員の学校への支援
 不登校対策支援会議のメンバーとして、心の指導員の位置付けを明確にし、不登校児童生徒への指導について、学校と共に考え、積極的な支援を行う。
- 奥州市不登校対策実行委員会の設置
 教育委員会を中心に、教育事務所、教育研究所、一関児童相談所、子ども・家庭課、民生児童委員などの関係機関が連携して、具体的なケース会議等にも取り組み、不登校児童生徒を抱える学校への支援・援助を行う。
- 個票の作成と中学校での把握
 「不登校経験あり群」の児童について、個人の連絡カードをもとに小・中学校間で引継ぎをし、中学校で適切な支援を行うことができるようにする。参照：「中一不登校の未然防止に取り組むために」【国立教育政策研究所】
- 学校毎に不登校対策支援会議の実施
 全中学校に不登校対策支援会議を組織し、教育研究所の心の指導員、子ども・家庭課の家庭相談員、教育委員会の指導主事も同席し、定期的・継続的に、不登校生徒の情報共有と指導の方向性を協議する。
- 不登校児童生徒の分析と対策
 学校から「月3日以上」の欠席者数と「月7日以上」「累積欠席30日以上」の欠席者・「別室登校」の児童生徒の個票(様子、取り組みの状況など)を報告していただき、原因等について分析し、次の対策について学校へ知らせる。学校だけでなく、関係機関や家庭や地域も含め、みんなで子どもたちを育てようとする意識が高まった。子どもたちの回復や小さな前進を、みんなで認め喜び合えるようになった。

【奥州市の不登校児童生徒数】

年度	小6	中1
19-20	4人	26人
20-21 1月現在	2人	10人

(奥州市教育委員会 指導主事 菅原 るみ子)

「総合教育センターHP - 教育相談担当 これまでの研究」の中に、中学校 1 年生の個票例が掲載されています。小学校中学校の引き継ぎ資料として効果的な内容となっています。
http://www1.iwate-ed.jp/tantou/soudan/kenkyu/tyu1_soukitaou.pdf

不適応対策に係る情報を発信していきます。不適応対策指導の参考に活用していただければ幸いです。
 岩手県教育委員会事務局学校教育室生徒指導担当 (019-629-6145)
<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=1813&ik=3&pnp=86&pnp=1779&pnp=1813>